

医療施設長 様

鹿児島市医師会臨床検査センター  
センター長 上ノ町 仁

## 新規保険適用項目受託開始のお知らせ

日頃より当臨床検査センターをご利用いただき、誠にありがとうございます。

この度、外部委託先の株式会社エスアールエルより、新たに保険適用された検査項目の受託開始について案内がありましたので下記の通りお知らせいたします。

該当する検査項目をご依頼いただく際はご確認くださいませよう、よろしくお願い申し上げます。

### 記

■実施日 2022 年 8 月 1 日 (月) ご依頼分より

### ■新規項目内容一覧

検査項目・コード JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査 方法	基準値 (単位)	備考
<b>検理指針対象</b> Y染色体微小欠失 (AZF欠失) 8C896-9935-019-898	血液 2.0 (EDTA-2Na)	E PN5 (C)	冷蔵	4~9	<b>①②③</b> <b>3770</b> ※2	PCR-rSSO法	なし	<b>重凍</b> 裏面参照

※ 2 : 遺伝子関連・染色体検査判断料

- ① 精巣内精子採取術の適応の判断を目的として実施した場合に患者1人につき1回に限り算定する。なお、本検査を実施する医学的な理由を診療録に記載すること。
- ② 次のいずれかの施設基準の届出を行った保険医療機関であること。  
ア 生殖補助医療管理料の生殖補助医療管理料 1 又は 2 のいずれか  
イ 精巣内精子採取術
- ③ 遺伝カウンセリング加算の施設基準に係る届出を行っている、又は当該基準の届出を行っている他の保険医療機関との間の連携体制が整備されていることが望ましい。

## ● Y染色体微小欠失（AZF欠失）

男性不妊の診断の補助と治療方針決定に使用する検査です。

男性不妊の原因の一つとして、Y染色体上の無精子症因子（Azoospermia factor：AZF領域）の微小欠失が確認されています。

その欠失パターンは、AZFa欠失、AZFb欠失、AZFc欠失などに細分化され、欠失する領域により症状が異なると報告されています。AZFc欠失や、日本人男性の約1/3に認められるAZFc部分欠失（gr/gr）の場合は、顕微鏡下精巣内精子採取術（micro-TESE）による精子採取が期待できると考えられています。欠失部位を特定することにより、男性不妊の診断の補助と顕微受精などの治療方針決定に役立つことが期待されています。

### ▼検査要項

検査項目名	<b>倫理指針対象</b> Y染色体微小欠失（AZF欠失）
検体量	血液 2.0 mL
容器	E PN5 (C) EDTA-2Na入り
保存方法	冷蔵保存してください
所要日数	4～9日
検査方法	PCR-rSSO法
基準値	-
報告形式	【親展報告】 AZF領域の欠失のパターンをご報告いたします。（下表参照）
検査実施料	<b>123</b> 3770点 （「D006-28」Y染色体微小欠失検査）
判断料	100点（※2 遺伝子関連・染色体検査判断料）
備考	<b>重凍</b> 凍結保存は避けてください。 本検査は、Y染色体微小欠失を検出する、男性を対象とした検査です。 他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。 ※倫理指針準拠依頼書（遺伝学的検査）に記入してご依頼ください。

### [OL69 8] Y染色体微小欠失（AZF欠失）の主な欠失部位

検出対象となる主な欠失※	AZFa欠失
	AZFb欠失
	AZFb+c欠失
	AZFc欠失

- ※ その他Y染色体上の微小欠失が検出される場合もございます。
- ※ 臨床的意義不明の欠失が認められた場合は、判定不能とご報告いたします。
- ※ AZFc部分欠失（gr/gr）は、日本人男性の約1/3に認められます。

### ▼Y染色体微小欠失（AZF欠失）の報告パターン

AZFa欠失	Y染色体欠失	AZFc部分欠失（gr/gr）
AZFb欠失（P5/proximal P1）	Y染色体長腕欠失	判定不能
AZFb+c欠失（P5/distal P1）	Y染色体長腕部分欠失Ⅰ	検査対象欠失なし
AZFc欠失（b2/b4）	Y染色体長腕部分欠失Ⅱ	
	Y染色体長腕部分欠失Ⅲ	
	Y染色体長腕部分欠失Ⅳ	
	Y染色体長腕部分欠失Ⅴ	
	Y染色体長腕部分欠失Ⅵ	

### ●参考文献

- Masashi Iijima, et al : Int J Urol. 21 (9) : 910～916, 2014. （検査方法参考文献）  
高 栄哲, 他 : J. Mamm. Ova Res. 30 (4) : 135～144, 2013. （臨床的意義参考文献）